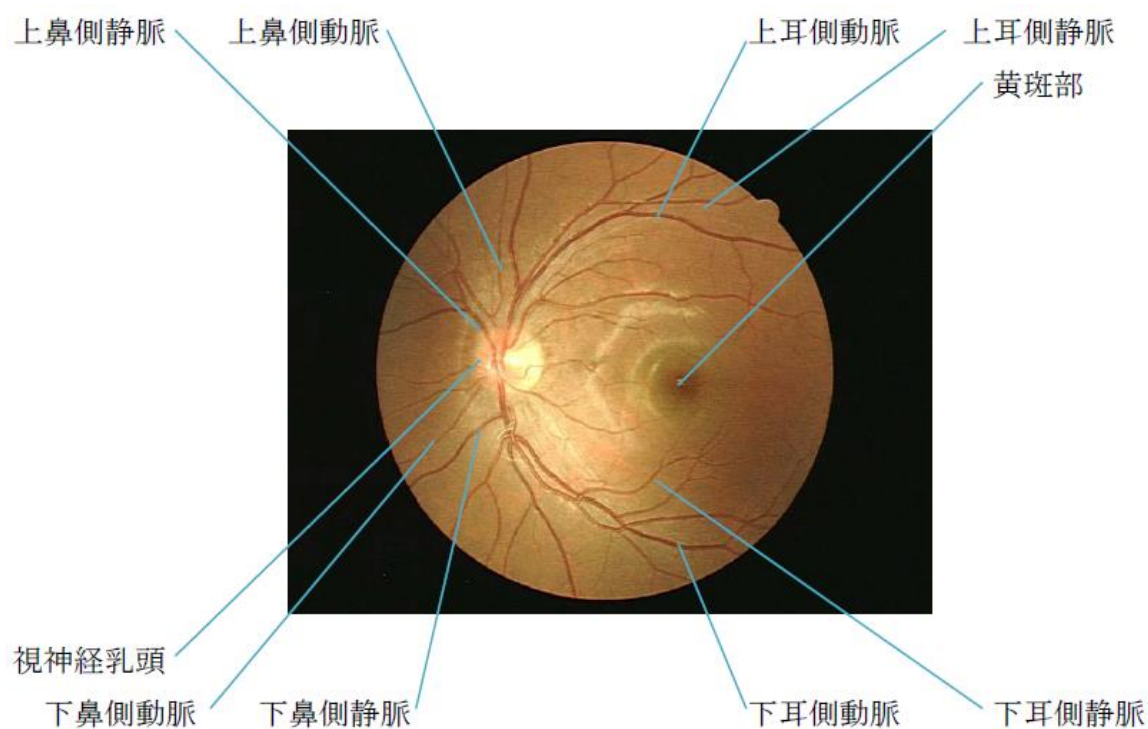


眼底検査

眼底とは眼球の後ろ側にあたる部位で、硝子体・網膜・脈絡膜・視神経乳頭などを総称して「眼底」といいます。眼底は体の中で細動脈を直接観察することができる唯一の場所です。眼底検査では動脈硬化の程度や高血圧・糖尿病に伴う血管異常の有無を確認することができます。健康診断で眼底検査を実施する主な目的はこのような全身の病気の影響を確認することにあります。また、同時に眼科的疾患についても発見できる可能性があります。

眼底写真



異常所見

1. 高血圧や動脈硬化による異常所見

細動脈狭窄：細動脈の太さが細くなる

口径不整：細動脈の太さが一定でなくなる

交叉現象：動脈と静脈が交叉しているところでは動脈の壁が静脈を隠して静脈が細く見えたりする。ひどくなると静脈をせき止めてうっ血することがある

眼底出血：網膜血管から点状～斑状、ときには広範囲に出血する

2. 糖尿病（糖尿病性網膜症）による異常所見

毛細血管瘤：毛細血管にできる小さな赤い点状のこぶのような膨らみ

眼底出血：網膜血管から点状～斑状、ときには広範囲に出血する

硝子体出血：網膜血管からの出血が硝子体に出てきた状態で血液が吸収された後も硝子体混濁の状態になる

3. 眼科的疾患による異常所見

・緑内障

網膜神経線維層欠損：周囲より暗いスリット状・くさび状の欠損。網膜の上下耳側によく見られる

乳頭出血：乳頭上、乳頭縁に見られる線状出血。下耳側が最も多く、次いで上耳側によく見られる

乳頭陥凹の拡大：視神経乳頭のリム部分の上下に局所性の菲薄化が起こり陥凹が縦長に拡大する

・加齢黄斑変性症

黄斑部色素異常：加齢による網膜色素上皮の機能低下

ドルーゼン：網膜より深層に見られる黄白色沈着物。網膜と脈絡膜の境目にあるブルフ膜が疣状に肥厚したもので老化現象の一種

新生血管：正常には存在せず、脈絡膜から新たに発生してくる血管で出血や血液成分の漏出を起こしやすい

・網膜静脈閉塞症

眼底出血：網膜の静脈に血栓ができて詰まり、網膜に出血を起こす。詰まった血管の部位によって網膜中心静脈閉塞症と網膜分枝静脈閉塞症に分かれます

分類方法

眼底検査の判定にはKeith-Wagener (KW) 分類慶大変法もしくはScheie分類が用いられることが多く、もっとも一般的な分類はKeith-Wagener (KW) 分類慶大変法です。

KW分類慶大変法

分類	眼底所見	眼底病名
0群	所見なし	正常眼底
I群	動脈の狭窄と硬化軽度	高血圧性眼底
II a群	動脈硬化明らか狭窄も I 群以上	高血圧性眼底
II b群	上記の所見+動脈硬化性網膜症又は 網膜静脈閉塞：出血、白斑	高血圧性眼底
III群	著明な硬化性変化+血管攣性網膜症：網膜 浮腫、綿花状白斑、出血	高血圧性網膜症
IV群	上記所見+乳頭浮腫	高血圧性網膜症

Scheie分類

分類	動脈硬化性変化 (S)	高血圧性変化 (H)
0度	正常	正常
I度	動脈壁反射亢進と動静脈交叉現象軽 度	動脈狭細
II度	動脈壁反射亢進と動静脈交叉現象が 著名	著明な狭細化と口径不同
III度	銅線動脈	網膜出血、白斑

IV度	銀線動脈	網膜出血、白斑
-----	------	---------